

令和6年度第1回北区飛鳥山博物館運営協議会 会議録

日時 令和6年8月30日（金）午後2時00分～3時42分

会場 北区飛鳥山博物館 2階講堂

【出席】

運営協議委員一君塚仁彦委員、吉富友恭委員、有馬純雄委員、大木秀政委員、

阿久津光生委員、川原淳次委員

博物館 一清正浩靖教育長、倉林部長、坪井宏之館長、

鈴木直人事業係長・学芸員、松本みさわ管理運営係長、

久保埜企美子主査・学芸員、山口隆太郎主査・学芸員、

牛山英昭主査・学芸員、安武由利子学芸員、高坂勇佑学芸員、

佐々木優学芸員、田中葉子学芸員、谷口とし学芸員

【欠席】

井上由佳委員、渋谷寿朗委員、中尾洸太委員

【事務局】 ただいまから令和6年度第1回北区飛鳥山博物館運営協議会を開催いたします。

はじめに、東京都北区教育委員会を代表しまして、清正浩靖教育長よりご挨拶を申し上げます。

【教育長】 このたびは令和6年度・7年度の2回にわたる飛鳥山博物館運営協議会委員をお受けいただきまして誠にありがとうございます。

皆様には飛鳥山博物館の運営に関わる事項につきまして、貴重なご意見を賜りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ご案内のとおり、飛鳥山博物館は生涯学習の基盤的な施設として、北区の歴史や文化を伝え、区民の郷土への愛着や関心を深めることを使命としています。これまで以上に多彩な学習機会を提供し、教育先進都市北区を目指し、さらなる発展に寄与していくことが期

待されているところです。そのためにも、運営協議会委員の皆様のより一層のご提言をお願い申し上げます。

また、今後とも、より多くの観覧者の皆様にご利用され、開かれた博物館として地域に根差していきたいと考えています。

以上、簡単ではございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】 今後の協議会の進行につきましては、議長にお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

【議長】 今日は本当に足元の悪い中、台風が近づいてきておりますので、時間どおり、予定どおりに終わらせたいと思います。協議の進行、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和6年度第1回北区飛鳥山博物館運営協議会を始めたいと思います。

本日の協議会の議事は3件ございます。1件目は令和5年度事業の報告、それから、2点目が令和6年度の事業計画、それから、3件目が新たな活動ビジョン策定に向けた検討でございます。

まず5年度事業の報告について、事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】 令和5年度事業報告をさせていただきます。着座にて失礼いたします。

お手元の資料、事業報告ですが、1ページ目でございます。

この令和5年度の事業報告は、前年度に12月までの中間報告をさせていただきました。今回ご報告いたしますのは、年度末3月までの集計でございます。

令和5年度入館者数が10万4,033人を数えました。そのうち常設展示室の観覧者数が2万258人でした。また、3階にございます飛鳥山アートギャラリーでございますが、第1室のほうを観覧者数2万7,642名、そして、第2室のほうが1万1,329人を数えております。続きまして、2ページ目、展示でございます。

特別展示室で行われた展示と、その他の場所で行われた展示、二つに分けてございます。

特別展示室で行われた展示に関しましては、企画展3回、特別展覧会1回、わくわく展示1回、学校対応展示1回、スポット展示1回の合計7回、264日間、229営業日、4万6,296名を

数えております。

その他、ミニ展示を3階の閲覧コーナー周りのところで行っております。そちらが1回、215日間、181営業日でございます。

展示の内容については少し割愛させていただきますが、昨年度、令和5年度というのが開館25周年ということもありまして、そのうちスポット展示、ミニ展示に関しましては、25周年を記念して行われた展示を行っております。

6ページ目、スポット展示がございます。

「ASUKAYAMAセクション25」を開催いたしました。通年ですと、「ASUKAYAMAセクション5」ということで、5点を学芸員が選りすぐった資料として展示しているのですが、昨年度、令和5年度は「25」と称しまして、学芸員全員が資料をセレクトしまして展示したものでございます。

そして、ミニ展示「おかげさまで25周年北区飛鳥山博物館の歩んできた道、歩む道」を行いました。こちらのほうは、パネル展示として、3階のアートギャラリー周りで行ったものでございます。

そして、8ページ目、講座・講演会でございます。

一般向け講座・講演会、32講座、50回、1,262名。展示関連講座、8講座、9回、215名。夏休みわくわく講座、14講座、30回、555名。計54講座、89回、2,732名を数えました。こちらの講座・講演会に関しましても、25周年ということ意識しまして行ったものが幾つかございます。

10ページ目をご覧になってください。

6番「開館25周年記念北区再発見！学芸員リレー講座〈前期〉」とございます。

「開館25周年記念北区再発見！学芸員リレー講座」というのは、学芸員全員が総当たりになりまして、古い時代から新しい時代に至るまで、各テーマを各学芸員が担い、行ったものでございます。そちらの前期分をこちらに掲載しております。

続きまして、12ページ目をご覧ください。

25周年という節目の年であったのですが、その他にも記念すべき年でもございました。

12番、「関東大震災記録を読む」という講座を開きました。ちょうど令和5年が関東大震災の発生から100年目という年でございましたので、それに合わせて講座を打ったものでございます。

13ページ目でございます。

14番、「公園指定150年記念飛鳥山の歴史」を開催いたしました。こちら、令和5年に飛鳥山が明治6年に公園指定されてから150年という、そういう節目の年ですので、この講座を打ったものでございます。

14ページ目でございます。

16番ですが、先ほど「開館25周年記念北区再発見！学芸員リレー講座」の前期がございましたが、こちらは後期を行ったところでございます。

17ページ目でございます。

25番、飛鳥山3つの博物館合同講座「飛鳥山1日大学ーお金とお札にまつわる3つの特講ー」を開催いたしました。この飛鳥山には、紙の博物館、そして渋沢資料館と並んで、3つの博物館がございますので、それぞれの学芸員が共同でこのような講座を行った次第でございます。毎年、テーマを変えて行っているものですが、渋沢栄一が新一万円札になるということにちなみまして、「お金とお札」というテーマで、各所管の視点でお話をしたものでございます。

続きまして、28ページ目、広報活動でございます。

S N Sでございますが、X、旧ツイッターでございますが134投稿、インスタグラムが48投稿、フェイスブック48投稿を行いました。

6番、出張事業でございます。

出張事業に関しましては、一般講義として5団体、8回を行った次第でございます。

続きまして、29ページの7番、団体見学でございます。

こちらは一般見学、小中学校見学、高等学校・専門学校・大学・大学院見学、保育園・幼稚園を合計しまして、47団体、1,980名を数えました。その中で、一般見学の中ですが、デイサービスが5団体、53名を数えておりまして、常設展示室の利用をされております。

また、一般団体の中ですけれども、はとバスが博物館をコースに指定しまして、令和5年度では14回、440名の方が、はとバスで来館されております。

続きまして、31ページ目でございます。小中学校の見学でございます。

小学校、中学校、その他、合計しまして10校、551名の見学がございました。この小学校、中学校、その他でございますが、区内の小中学校はもとより、近隣の学校もこちらの博物館を利用されております。

続きまして、32ページ目になります。

高等学校・専門学校・大学・大学院見学でございますが、高等学校・専門学校・大学・

大学院を合計しまして6校、184名というところでございます。6校、184名、大学がこちらのほうに来館されたということになります。

保育園・幼稚園見学は、1園、24名でございました。

33ページ目、学校対応・支援事業でございます。

まず、学校対応事業としまして、例年行っております「来て、見て、知って！昔の暮らし」を行いました。小学校中学年社会科の単元であります「古い道と昔の暮らし」に対応する事業で行いました。展示と、それから体験を合わせたセットにしております。参加学校数が35校ございました。

続きまして、小・中学校支援事業でございます。

出張事業と称しまして、学芸員が小・中学校に赴きまして、そして課題授業を行ったものでございます。

34ページ目、職場体験でございます。

例年実施しておりまして、令和5年度は4校、8名の参加がございました。

35ページ目、高等学校・大学支援事業でございます。

インターンシップにつきましては、応募校がなく、実施はいたしませんでした。そして、高等学校・大学支援事業の中での職場体験を行いました。

それから、見学実習を行っております。この見学実習につきましては、東京家政大学様の方から、先ほどの学校対応事業「来て、見て、知って！昔の暮らし」展示見学ということで実施したものでございます。

36ページ目、教員支援事業でございます。

この教員支援事業としましては、東京都中堅教諭等資質向上研修ということで、当館で研修を受けたいというご依頼がありましたので、1校、2名の方に研修を受けていただきました。

続きまして、9番、学芸員実習でございます。

博物館実習として4名の実習生受け入れて、夏季に行っております。

37ページ、見学実習でございます。

こちらのほうは、バックヤードを含めた博物館の中を見て、見学する実習でございます。4校のご参加がございました。

そして、3番、博物館実習の協力ということで、東京学芸大学様から協力依頼がございまして、当館の中で博物館実習、実務実習を行うということを行いました。

38ページ目、資料の貸出しでございます。

貸出件数5件、そして、貸出点数が47点ございました。

39ページ目、資料の利用でございます。

利用申請件数が71件、そして利用件数が296点ございました。

この資料の利用に関しましては、閲覧ですとか、それから画像データの提供ですとか、それから動画撮影ですとか、様々なことが行われておりますが、その中でやはり画像データの提供というものが一番多くございまして、71件中半数以上に当たる42件が画像データの提供でございました。

50ページ目、資料の収集でございます。

寄贈でございますが受入件数が5件、資料件数が1,469点ということになっております。かなり多い資料点数ではございますが、こちらの方は表の中の3番、4番ということで、榎本徳次郎商店資料、それから滝野川村榎本家文書附民俗資料、こちらを一括で寄贈という形になりましたため、このような点数になっております。

それから、購入でございます。実施件数が25件、資料点数が28本でございます。

この購入につきましては、令和4年度が5件、5点と少なかったのですが、令和5年度は北区に関連する資料の市場での出回りがございましたので、こちらの件数になってございます。

51ページ目、資料の保全でございますが、環境調査を行いました。

その結果、昆虫調査、菌類調査、温湿度調査がございまして、昆虫調査の中では、文化財害虫というものが検出されたのですが、この博物館が飛鳥山公園の中にあるという、立地条件の中で、このような状況になったと考えられております。それを受けまして、環境を整備するということで、52ページ目でございますが燻蒸を行っております。収蔵庫の特別収蔵庫と、それから一般収蔵庫の中とを、薬剤を使いまして、殺虫、殺菌の作業をいたしました。

事業報告につきましては以上でございます。

【議長】 ただいまの報告をお聞きになられまして、委員の皆様からご質問、ご意見等を頂戴したいと思います。ご発言いただきたいと思います。ご意見等おありの方は挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。

どの角度からでも結構ですが。非常に多岐にわたっていると思います。

【委員A】 初めて参加させていただきましたので、多岐にわたって、どうなっているのかよく分からないというのが現状ではあります。

ただ、1点だけ、資料を見させていただいて感激したのは、やはりプログラムといいですか、企画が多岐にわたって、非常にたくさんあるなど。僕、30年ぐらい住んでいますけど、ほとんど参加したことがないほどにたくさんありまして、非常にインプレッシブだったと思います。

こういう企画、学芸員の方がいっぱいいらっしゃるのですが、質問の一つですが、どうやって発案や企画したり、どういうところからアイデアを、例えば、決めていくプロセスというのがあるのかということ、毎年毎年こんなにやれるバックグラウンドみたいなものを知りたかったというのが一つあります。いかがでしょうか。

【事務局】 まさに当館の一番の特徴というものが、こういった展示や教育普及活動の多さであるかなと思っております。

それぞれの企画に関しましては、講座もそうですし、展示もそうですけども、各学芸員が考えを出して決めております。特に展示に関しましては、展示のスケジュールをどういうローテーションでやっていくかということを決めまして、それに合わせて各学芸員がテーマを見つけて、そして、それに対する資料調査を行い、そして借用ですとか、交渉を行って、実際に実現化していくというのがございます。ですので、展示に関しましては、1年以上の長いスパンをもってやっているところでございます。

それぞれの講座に関しましては、それぞれの学芸員が自分の専門分野を中心にして、アイデア出しをして企画しているところでございます。

1年間の事業計画、次に令和5年度の事業計画のご説明をさせていただきますけれども、次年度に向けまして、我々の中で会議を開きまして、自分たちが来年度行う企画を持ち寄り、その中で学芸員同士の意見交換をして、その中でスケジューリングをして決めていくというようなことをしております。

【委員A】 この企画をされるときに、例えば他の博物館の方と協議しながら、一緒にやっていくというか、そういうこともあるのですか。先ほど3つのというお話がありましたけど、他館との協働というのはあるのでしょうか。

【事務局】 先ほどの3つの博物館の合同企画というのは、やはり3つ並んでいますので、それぞれの館の持ち味を出しまして、一つテーマでやっていこうという流れで行っています。

それは毎年行うものですが、テーマによりましては、ほかの博物館とコラボレーションし実施することも過去にはございました。

この北区という場所と葛飾区という場所が古代の道、古代、東海道を結ばれているという、同じそこを通っているということが歴史上で判明しておりますので、それに合わせて、2つの博物館の学芸員が共同で講座を企画しということも実際にやっていたことがございます。

また、展示に関しましては、やはり「トラム（路面電車）とメトロ（地下鉄）」という、テーマをもって、同じような条件下にある豊島区、新宿区、板橋区などと合同で展示をやるというような、コラボレーションも過去には実施したことがございます。

【委員A】 資料を読ませていただいて、少し、なかなか頭に入ってこなかった所が1点ありまして、K P I みたいなというのは設定されていらっしゃるのでしょうか。

例えば1ページ目を見ると、入館者数であったりとか、各企画に対しては申込数であったり、実際に入ってきた方とかいらっしゃると思うのですが、何かそういうK P I みたいなものを設定されているのかどうか。

それから、もしそれが重要な数字であれば、何となく時系列的に見たいというのが1つと、それを多分企画ごとに、成果といいますか、幾らぐらい申し込まれて、何人ぐらい入ってきてというのがあると、これは人気があるのだとか、そういうのが何かインフォグラフィック的に見せていただくと、ずっと頭に入ってくるなど、ちょっと民間企業的には思いましたというのが1点です。

それから、やはり最初に議長からお話があったとおり、すごく多岐にわたっていて、何をやられているのかが、どういうものが活動なのかというのが、いま1つ、ずっと入ってこないで最初に目次とかがあっていただくと、こういうことが全体像だというのが分かるなと思いました。

【事務局】 各講座等に関しましては、会場が講堂で大体60名から80名ということがありますので、そこを基準にして設定して申込者、そして定員をさらに少し多めに募集するよ

うな形で参加者に周知し、協議してというところでもあります。

今はそのような状況ですので、そこはしていきたいと思っております。

また、目次に関しましては、ご意見はおっしゃるとおりで、そういったようなことをこの事業報告の中にもしっかりと冒頭に目次を設けて、分かりやすくすることがこれから大切かなと思いますので改善したいと思います。

【議長】 ほかに委員の方々から、何かご意見等がありますでしょうか。

【委員B】 今年の夏に東京国立博物館に見学に行きました。そこで思ったのが、大変外国の方が多かったです。日本人の方より多いと思うぐらい多くの方が来ていて、それはもう本当に情報が届いているから、わざわざ東京国立博物館まで来るのだらうなと思ったのですが、そこを考えたときに、例えばこの来館者数の中で分けられるか、分からないのですが、もしかしたら外国の方がどれぐらい来ているのかというのを知りたいのと、これから先の博物館のことを考えると、そういった方たちも取り込んでやっていくような手だても大事になるのかなと思いましたので、情報発信もどのぐらいまでのことをされているのかというのを、聞いてみたいと思いました。

【事務局】 私も最近、東京国立博物館に久しぶりに行ってきまして、外国人の多さにびっくりしたところでございます。

当館でも外国の方がいらしてというのは、受付の方の報告ですとか、そういった中からは漏れ聞くことがあるのですが、はっきりと何人来ているかというカウント自体は、なかなか今は見えないところでございます。

これからのインバウンド、外国の人の利用に関しましては、これからの課題として、我々も受け止めているところでございます。

博物館に来てもらうような下地作りですとか、情報発信ですとか、今日の議題にもありますが、そういう中にも少し取り込む形で、これから考えていきたいなと思っているところでございます。

【議長】 もう少し意見をやり取りしたいところではございますが、あと2つ、次年度の計画と、それから将来計画についてという議題がございますので、先に進めさせていただ

いてもよろしいでしょうか。

2番目の議題、令和6年度の事業計画についてということで、ご報告のほうをよろしくお願い申し上げます。

【事務局】 令和6年度北区飛鳥山博物館事業計画をご説明させていただきたいと思います。

1ページ目でございます。令和6年度の展示・イベント・講座・講演会事業計画のポイントでございます。

まず展示事業に関しましては、ミニ展示の開催を考えております。

ミニ展示自体は、過去にもいろいろな場所で、特別展示室を会場としないところでの展開としてミニ展示を行ってきたところでございますが、令和6年度に関しまして、1つの試みとして、この講堂を会場としまして、半分に仕切った講堂を会場としてミニ展示を開催し、会場の中で関連講座を開催するというようなことを試みとして行おうと思っております。

2つ目ですが、旧岩淵水門100周年記念展示を開催しております。この計画自体が前年度の3月にご提示させていただいたものですので、その段階では予定でございましたが、今日、8月末までになっておりますので、こちらの旧岩淵水門100周年記念展示は実際に実施しておるところでございます。また、この委員会が終了した後に、その展示のほうをご覧になっていただければと思っております。

つづきまして、講座・催し物事業です、令和5年度のポイントとしては、夏休み以外での子ども向け講座を実施できないだろうかというところでございます。

これまでは子どもや親子向けの講座というのは夏休みに集中して行っていたのですが、今年度は試験的に、それ以外の時期においても講座を開催し、子どもや親子の博物館に対する関心等を図るということで、夏休みだからこそ、お子さん、それから親子が参加していたのか、それとも博物館講座の魅力が通じれば、夏休み以外でも参加してもらえというようなところを図ってきたいと思ったところです。

そこで、予定しております展示・イベント・講座・講演会事業数ですが、展示関連といたしましては、合計9回予定しております。講座・催し物ですが、63講座、94回。夏休みわくわくイベントとしては、夏休みわくわくミュージアムを1回予定しております。

次に、2ページ目展示に関しましては、企画展を3回予定しております。

1番の展示、企画展に関しましては、令和5年度の春季企画展が3月から4月にまたがって開催ですので、令和5年度春季企画展を5月12日まで。実際に講座は終了しております。

そして、秋期企画展として「台所(キッチン)の考古学―食にまつわる道具の歴史―」を、この秋に開催する予定でございます。

そして3番、春季企画展として「(仮)北区の埴輪」ということで、春、令和6年度から7年度にかけての年度に開催する予定でございます。

続きまして、特別展覧会ですが、特別展覧会は第23回を数えますが、「人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」を秋に開催する予定でございます。

続きまして、3ページ目です。

学校対応事業展示、「来て、見て、知って！昔のくらし展」を例年どおり、1月から2月にかけての開催を予定しております。

スポット展示2回に関しましては、もう既に終了しているものでございます。収蔵資料展示「学芸戦隊キュレイター第2話司令官FOX登場」を5月から6月に開催いたしました。

そして、2番、「大水害から東京を守れ！岩淵水門と荒川放水路」、こちらを9月1日まで開催中でございます。

4ページ目ミニ展示が、先ほど申し上げました講座と、展示を合体させて行うというところになります。

そして、常設活用展示でございますが、常設展示室の中の水塚のところを利用しまして、昔の生活用具を展示した〈回想のための〉テーマ展示「オボエテマスカ？―懐かしの暮らしと道具―」を開催いたしました。実際にはもう終了しております。

イベントですが、「夏休みわくわくミュージアム☆2024」、こちらのほうも8月25日で終了しております。

続きまして、5ページ目以降の講座・講演会ですが、先ほどもお話しさせていただきました夏休み以外の子ども向けの講座としまして、5ページ目の2番、ちびっこ体験講座「このぼりをつくろう！」を開催いたしました。

6ページ7番「親子で体験！王子田楽」でございます。こちらのほうも小中学生向けと、その保護者向けに王子田楽を知っていただくということで、体験講座として開催しております。

8番「北区ジュニア考古学クラブ2024」でございます。通年を通しまして、子どもたちに考古学を知り、学んでもらおう、楽しんでもらおうということで開催しているものでご

ざいます。

続きまして、10ページ目25番、ちびっこ体験講座「あすかやまのどんぐりでおもちゃをつくろう！」でございます。こちらに関しましては新規の講座ではなく、もう既に行われている継続講座ですが、非常に人気が高く、多くの方が参加されておりますので、継続して行うということにしております。

12ページ目30番、博物館であそぼう「江戸時代のおもちゃ、ずぼんぼを作って遊ぼう！」でございます。そして、31番「博物館で遊ぼう、年末編」、年末から正月にかけて行われていた遊びなどを体験する講座を開く予定でございます。

14ページ目39番、「考古学をはじめようジュニア編」でございます。小学5年生から中学生を対象とした、考古学を楽しんでもらう講座を開催する予定でございます。

続きまして、展示関連講座の中でも、子ども向けの講座を予定しております。

16ページ目7番、秋期企画展関連事業「企画展示ジュニア解説会」を開催する予定でございます。通常ですと、企画展の展示解説は一般向けに行ってきましたが、令和5年度から試験的にジュニア解説会を行いましたので、継続して実施しようというものでございます。

そして、17ページの9番が先ほどのミニ展示&講座の部分になります。

夏休みわくわく講座に関しましても例年どおり、夏休み期間中に親子向け、子ども向けの講座を12講座、16回、開催する予定でございます。

続きまして、一般の活動です。

20ページ目広報活動ですが、SNSを通じて、通年博物館の活動情報を提供していこうと思っております。

21ページ学校対応・支援事業でございます。「来て、見て、知って！昔のくらし」を、例年どおり、1月から2月の間に開催する予定です。

そのほか、体験事業、出張事業、職場訪問、体験、こういったものは通年を通して、依頼に応じて実施する予定でございます。

22ページ目、学芸員実習でございます。

博物館実習に関しましては、8月6日から8月18で、既に終了しております。今年度も、4名の実習生が来て、博物館実習を行いました。

また、2番の見学実習は通年、依頼に応じて実施する予定でございます。

続きまして、6番出張事業ですが、こちらにも回想プログラムですとか、一般講義、通年

で依頼に応じて実施する予定でございます。

7番、団体見学でございます。一般見学、学校等見学に関しまして、依頼に応じて実施しております。

8番、資料の貸出・利用でございます。資料の貸出し並びに利用に関しましても、同じく依頼に応じて実施しているものでございます。

24ページ目、9番の資料の収集でございます。資料の寄贈に関しましても、寄贈のご依頼がございましたら、それをお受けする形を取っております。

資料の購入に関しましては、カタログですとか、古書店のカタログ、目録ですとか、そういったものの中で情報をキャッチしましたら、購入という形を取る予定でございます。

最後、10番の資料の保全ですが、環境調査のほうを5月から6月において実施いたしました。また、燻蒸に関しましても、6月24日から7月7日にかけて実施したところでございます。

令和6年度の事業計画は以上でございます。

【議長】 ただいまの事業計画につきましては、前期の協議会、令和6年3月26日に開催いたしました令和5年度第2回の運営協議会で一応承認しておりますけれども、新しい委員の方がお見えだということで、今回、説明させていただいたということでございます。

1番目に事務局からご説明いただいた、令和5年度事業報告については、異論はございますか。ご承認いただいてよろしいでしょうか。

(拍手)

【議長】 ありがとうございます。

つづきまして、令和6年度の事業計画についてご説明いただきました。もう進行中でございます。

これにつきまして、委員の先生方から、ご質問、ご意見等を賜りたいと思いますが、いかがでしょうか。

【委員C】 今年度も素敵な取組をされて、さすが飛鳥山博物館だなと思っております。

また、小学校はいろいろな体験で利用させていただいていますが、中学校はなかなか利

用していないということで、私も区の教育研究会の際には本当に学芸員さんが素晴らしいので、何かあったら、教材でも何でもいいから聞いて、そうするといろんなものを出してくれるというようなことを言っております。

私も、この資料の「ファッションプレートが映し出す近代」ですか、この中にある54ページのすごろくを以前、教員時代にお借りしたことがあります。これは大正時代のすごろくですけども、これ以外に、これともう一つ、明治のすごろくがあるんですね。その明治のすごろくと大正時代のすごろくを子どもたちにやらせると、時代の違いがはっきりするのですね。

まさに人生ゲームなので、片や明治は武官になる、立身出世。それに対して大正時代、大正ロマンです。大金持ちになる。また、関東大震災なので地震が起きて破産するとか、いろんなものがあります。

こんな形で、こんなものがありますよという形で、また、教員にも話をしますけれども、そんな情報提供などもしていただけると、たくさんここに載っている服装の歴史、これも前回も言いましたですけども、これについても非常に、なかなかないものだと思っておりますので、素晴らしいなと思っております。

以上です。

【事務局】 ありがとうございます。当館の資料の活用方法など、なかなか学校の先生方にも博物館をどうやって利用したらいいのかとか、ご存じになられていないという方もいらっしゃるかなと思ひまして、今年度試験的に、先生のための博物館利用を促すような、先生のための講座というものを実際に開いております。

こういった中で、少し我々も先生方にPRをして、博物館でもこんなことができるんだということ、こんな資料を持っているとか、そのような基本情報も含めてですけども、情報をご提供して、先生方によりこの博物館を活用していただける機会をこれからも作っていききたいなと思っております。

【議長】 ぜひ進めていただけたらと思います。とても大切なことだと思います。

ほかにご意見はありますでしょうか。

【委員D】 来年春に開催予定の「北区の埴輪」は、大変期待したいところであります。

赤羽は今、いろんな意味で話題になっているところですが、今後を考えると、東口に再開発構想がございまして、非常に古代と現代とが混在したような様相が見えてまいりましたので、「北区の埴輪」には改めて期待させていただきたいと思っております。

以上です。

【議長】 委員Eからもコメントがございまして、やはりSNSですかね、そのところの強化策をぜひ考えてほしいということで、今日も報告の中で盛り込まれておりましたが、これについて何かありますでしょうか。

【事務局】 委員Eから様々なご意見を頂戴しまして、特にInstagramをもう少し活用したらどうかということでございまして、実際に報告の中にもございましたけれども、X、旧ツイッターは数を割とコンスタントにできているのですが、なかなかInstagramはビジュアルなものをということでございますので、職員の中では、悩んでいるところでしたので、このご意見を踏まえまして、もう少し再考して考えていけたらなと思っております。

【議長】 画像中心のものなので、なかなか難しいところがあります。ぜひ、ご検討いただければと思います。

ほかに委員の方々から、令和6年計画について、ご意見はございませんでしょうか。

【委員F】 特に、今のSNSのことですが、こちらから発信している数は、毎回報告にも上がっているのですが、情報を受け取る側の「いいね」とか、情報が届いているリーチ数とか、シェアされた数というのを少しカウントしておいていただくと、この計画の中でそういう視点を入れていただくと、どんな発信に対してどういう反応があったか、その傾向を分析するのにも役立ちますので、その辺りをぜひ追加をお願いできればと思いました。

以上です。

【事務局】 ご意見のほうは、おっしゃられるとおりで、やはり投げたままではいけないということで、どういうリアクション、どういうような受け止められ方があったのかとい

うところもしっかりと数字で、データできちんと捉えて、それを次に生かしていきたいと思います。

【議長】 仕事を増やすことになってしまうのですけれども、広報戦略としては非常に重要なご指摘だと思います。

ほかに、何かありますでしょうか。

それでは、ただいま出していただいたご意見等々踏まえていただいて、今年度の事業展開に生かしていただきながら、次年度以降の事業の計画にも生かしていただければと思います。

3件目の、非常にこれは重要ですが、議事でございます。新たな活動ビジョン策定に向けた検討ということで、事務局のほうからご説明いただきます。

【事務局】 新たな活動ビジョン策定に向けた検討と書かれた資料をご覧ください。

昨年度より委員をお引き受けいただいている皆様には、常にこの新たな活動ビジョン策定に向けた検討というのを始めていただいているところではありますけれども、今年度、新たに委員をお引き受けいただいた方もいらっしゃいますので、これまでの経過から少々ご説明いたしたいと思います。

私どもの博物館では、この下の参考のところ、四角で囲んだところですが、こちらに示したとおり、これまでに2回、平成17年と26年に活動ビジョンを策定し、それに基づき、様々な事業を展開してまいりました。

平成7年度策定のものにつきましては、「北区飛鳥山博物館のあり方」ということで、これは開館以来の利用実態を踏まえた活動ビジョンということで、ミッションに「知のバザール～モノ・コト・ヒトの出会いの場」の実現を掲げて活動を行ってまいりました。

平成26年には「北区飛鳥山博物館のあるべき姿」ということで、平成17年に策定した「あり方」、「北区飛鳥山博物館のあり方」策定以後の社会状況を踏まえ、新たな博物館の活動ビジョンとして、ミッションに「人々が共感し合える博物館」の実現ということを掲げまして、「共感」をキーワードに、知る喜びにあふれる、どんな人にも優しい、ぬくもりある博物館となることを目指し、活動を行ってまいりました。

ですが、こちら資料の1) 現状のところ示しましたとおり、活動ビジョン、前回の平成26年に作成しましたものから、設定から10年が経過しておりまして、その間に、本格的

な少子高齢社会の到来、コロナ禍を経た社会の変容、職員、学芸員の段階的な退職等、そういった現状に即した新たな活動ビジョンの策定が必要ということがございます。

そこで（２）のところに示しましたように、今後のスケジュールとしまして、令和6年、令和7年度のこの2か年を持ちまして、皆様に検討いただきまして、令和7年度末に新たな活動ビジョンを策定とできたらと考えております。

では、続きまして、裏面をご覧ください。

2. 新たな活動ビジョン案でございます。

新たなビジョンとしましては、①ミッション、「みんなの“My”ミュージアム—地域の歴史・自然・文化を今と未来に活かす—」を設定したいと考えております。これは博物館業務と文化財保護業務を行う当館独自の活動ビジョンで、令和8年度から17年度、開館日数にしては28周年から37周年における活動を想定し、設定したいと考えているものでございます。

下のところに、「参考」としまして、職員体制に書きましたけれども、私どもの博物館は館長以下、管理運営係に8名、それから事業係に10名の職員がおります。そのうち、学芸員としましては、博物館担当と文化財担当がおります。この両担当は連携して、各事業を進めているというところでございます。

博物館業務と文化財保護業務を共に行うという体制は、平成22年に当時の生涯学習推進課文化財係と統合して以来のものとなっております。博物館に求められる機能としましては、資料の収集保管、調査研究、展示公開、教育普及がございしますが、当館ではそれに加えて、文化財保護業務として文化財の所蔵者保護団体への助言ですとか、あとは文化財の保存・管理・修理、文化財の調査と成果報告、文化財の紹介なども併せて行っております。このようなことから博物館業務のみならず、文化財保護業務を行うこの博物館ならではの活動ビジョンを今回案として、「みんなの“My”ミュージアム—地域の歴史・自然・文化を今と未来に活かす—」という形で上げさせていただきました。

そのビジョンの主軸としましては、中黒で二つお示しいたしましたが、まず一つ目としては、地域の歴史・自然・文化を守り、今と未来に活かすための事業展開を行う。そして、二つ目としては、利用者個人とのかかわりを大切に、1人1人が「自分の」博物館と思えるような親しみのある博物館を目指すことを考えております。

この、「利用者個人とのかかわり」という点につきましては、参考の二つ目に示しましたように、現在当館には飛鳥山ダイレクトメールメンバーの会というのがございます。こ

の会というのは、いわゆる博物館でよく見ることができる友の会という組織ではなくて、催し物案内、先ほどお手元にも届けておりますが、催し物案内、博物館カレンダーなど事業を案内する発行物を年に4回、希望者に郵送するというサービスでございます。米印のところに書きましたように、これは郵送費がお客様からいただくというものでして、郵便料金をお預かりして発行日に、こういった発行物をお送りするというサービスになっております。

現在会員数としては徐々に減ってきてはいるのですけれども、現在94名の方にご登録いただいている状況です。講座数が非常に多いですので、お客様と接する機会も非常に多いのですけれども、そのときのお客様のニーズとしては友の会のような形で横のつながり、利用者同士でのつながりというよりは博物館とご自身、縦のつながりといいますか。直接的な博物館とのつながりというのを重視して、またそこに魅力を感じて、この博物館にお運びいただいているのではないかと感じているところでございます。ですので、今後のビジョンの中では友の会ではなく、親しみをキーワードに、新たな博物館ならではのお客様とのつながり、スタイルを模索していけたらと考えているところでございます。

このようなミッション案を踏まえまして、②活動方針ですが、この方針としましては「飛鳥山イズム」の継承と発展を掲げたいと思っております。この飛鳥山イズムというのは何なのかというところですが、開館以来培われてきたこの博物館の活動姿勢を造語としてつくったものでございます。それはどういったものかといいますと、時代を読み、新しいことに積極的に挑戦するチャレンジ精神、それから普及事業を重視した博物館活動の2点と考えています。なので、イズムを踏まえて、博物館としての使命を果たす五つの活動の柱、以下に記してありますけれども守る・探る・魅せる・繋ぐ・育むにおいて、設定した重点目標の達成に挑んでいきたいと考えています。

以下に、その活動の柱をまとめた図を掲載しております。

こちらの図につきましては、昨年度末の運営協議会で委員の皆様からいただきましたご意見を基に、再構成したものでございます。五つの柱としましては、今お話ししましたように守る・探る・魅せる・繋ぐ・育むの五つがございまして、その下に具体的な活動内容を挙げております。

「守る」については、歴史・自然文化の次世代への継承ということで、資料の収集保管、文化財の保護活用。「探る」は資料への多角的なアプローチということで、調査研究を行っていききたいと考えています。また、「魅せる」については魅力的な情報発信ということ

で、展示公開、教育普及、広報などを中心にやっていきたいと考えています。そして、「繋ぐ」については、多様な人々の出会いと学びの場の創出、キーワードとして連携、社会的包摂について挑んでいきたいと考えています。そして最後、「育む」については若年層の利用促進、既に今年度の事業計画のところでも重点的に活動を盛り込んではいるのですけれども、博学連携とか次世代育成といった点について活動を行っていきたいと考えております。

今、少しお話ししましたように、これらに挙げた活動内容というのは、これから新しく始めるものではなくて、これまでも行ってきた活動ではございます。ですが現状を鑑みて、次のページに示したように、それぞれに重点目標設定して意識的に取り組んでいくことで、ミッションの達成を目指したいと考えております。

その重点目標ですけれども、次のページのところに表として記したものでございます。

「守る」の中の収集保管につきましては、収蔵状況の見直し、収蔵資料のデジタル化、近現代資料の収集。文化財の保護活用としては指定文化財等の保護活用、文化財の調査・記録・指導・助言の拡充、文化財公開事業の推進、無形民俗文化財の継承。

「探る」でありました調査研究としては、常設展示リニューアルの予備調査。

「魅せる」の中では、展示公開・教育普及として、より新鮮で満足度の高い事業、時代性を意識した展示の開催。広報としては、デジタル化の推進、地域ブランド力向上への貢献。

「繋ぐ」としては、連携の中で緩やかなコミュニティ（例ファンクラブ）の構築、これは先ほどお話ししました友の会に代わるようなものとしてというところのイメージでございます。それから、組織内外の諸機関、団体との連携強化。社会的包摂としては多言語対応の充実、障害者対応の強化。

それから最後、「育む」としては博学連携の中で、学校現場との連携強化、区内学校の利用促進。次世代育成としては課外活動の場としての利用促進、博物館における社会経験の提供、中高生を対象とした事業開発を考えております。

今、柱としては五つ挙げておりますが、その中でも特にこの「繋ぐ」と「育む」のところを今後10年間の中で、より中心的に行っていきましたと考えております。特に、社会的包摂のところにある言語対応、障害者対応の強化とか、あとは育む、次世代育成の中の中高生を対象とした事業開発について行っていけたらと思っています。

今、挙げましたものは多くの博物館が直面している課題ですが、なかなか前に進むこと

ができずにいるという課題でございます。なので、ここをあえて明確な目標に設定して、今後10年間で挑んでいけましたらと考えております。

なお、これらのミッション、重点目標を達成する上では、現状として以下の目印に示しましたように、四つの懸念、懸案事項がございます。まず一つ目としては収蔵庫の収蔵状況です。館内の収蔵率が100%に近づきつつ、現在館内に分散収蔵している状況でございます。それから二つ目が学芸員の段階的退職。開館当時を知る学芸員、常勤ですけれども定年退職が続いている。それから三つ目が施設・設備の老朽化。開館25周年を過ぎ、施設や設備の不具合や故障が続いている。そして、最後が常設展示室のバリアフリー化。視覚障害者、聴覚障害者の方へ向けた見学補助設備が不足しているというところがございます。

以上、簡単ではございますが、新たなビジョン策定に向けたミッション、活動方針案、それから懸案事項についての説明とさせていただきます。

【議長】 今、お手元にも資料がございますけれども、検討事項や、今後のポイントとか、あるいはハード面の課題だとか、人的な課題だとかという部分をかなり有り体にご提示いただきまして、これから議論を深めていくのに十分な材料を提供していただけたのかなと思っております。

今回の議案は今日結論を出すとかいうことではなくて、継続審議事項ということで少し時間をかけて委員の方々からご意見いただきながら、よりよいビジョンの策定に向けて進めていきたいというふうに思っておりますので、最初でございますので、どんな角度からでも結構でございますので、ご意見それからご質問をお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

【委員A】 初めて参加させていただいておりますし、僕は外部からというか30年前に移住してきておりまして、子どもを連れてよくこの辺りをぐるぐる回らせていただいて、非常に楽しい場所だなと思っております。

今回いただいているミッション、“My”博物館というコンセプトは非常に感銘できる、共鳴できるものだと思っております、地域に密着した1人1人、自分としての位置づけというのが逆に売りなのかなという気がしております。

一つ、僕、ビジネスをやっている側からのお話もちよっと絡むのですけれども、多分あまり幅広くというか、全国区の博物館ではないとは思いますが、でも地域密着型って

言われるとまさしくそうで、僕も子どもを連れてここに来て、今でもたまに来させていただいて、非常に充実していると思っております。なので、方向性は全然、僕も賛同させていただくのですが、より地域密着型として区民の方が参加できるような形にさせていただくのが良いのではないかなと思っております。

ファンクラブと書いてありますけれども、我々もビジネス的にいうと自分たちのファンをいかにつなぎ止めて、広げていっていただくかという。ファンクラブってどちらかというと能動的じゃなくて、受動的に入って情報を下さいというパターンですけれども、ファンミーティングという形にしてもらって、まさしく地域の人が入ってきて、逆に企画してもらおうという。自分たちはこういうものを求めているので、自分たちで企画してもらったものを、学芸員の方たちと一緒につくっていくみたいな。

本日も教育関係の方もいらっしゃいますが、多分小学生はみんな連れられてくるのですが、例えば高校とか中学とか、大学もこの辺は一緒に企画していってもらおうとか、学芸員になってもらおうとか、そのような形で地域密着していただいて、よりボランティアに参加していただくというのがいいのではないかなと思っております。

まさしく、地域に密着して参加する、企画する側に入っていただくというのをやっていただくと、より親近感が湧くし、自分が企画したものは多分友達に推奨すると思うのですね。一緒に行ってみてですね。そういう形で、企画する側にもっとボランティアを入れていただいて、やっている方向自体に少し区民の意見を入れていっていただくと、すごく皆さんが自分事のように感じていってくれるのではないかなと思っております。

【議長】 貴重な意見だと思います。ほかにありますでしょうか。

【委員D】 北区史を考える会会長という立場で、こちらの席を温めているのでございますけれども、当会のフィクサーといいますか、北区の歴史をやっておられて知っておられる方は知っているという80代の女性ですが、この方がいわゆる北区史を考える会の中心的存在です。その方からせんだって、今日の資料を既にご覧いただいております、その感想を手紙で送ってきていただきまして、紹介させていただきます。

「飛鳥山博物館の人たちは忙しいとは、よく北区史を考えるメンバーの1人が言いましたが、この書類を見ると本当に大変だなとは思いますが、それがあまりに高尚過ぎて一般の人には伝わらない」と、ちょっと手厳しい文面が最初に出ています。それでいろい

ろ読んでいって、最後に書いてあるのですが、「もっと広報することを常時考えることが必要と思っています。色つき紙を町会の回覧に入れてもらおうとか、特別展だけでなく、日常的に博物館へいらっしゃいという態度が必要ではないかと考えています。そんな発言をする時間もないと思いますが、お年寄りがデイサービスに行くだけでなく、ちょっと博物館に行ってみようとか、子どもが行ってみたいと思うような何かがあるといいのにね」というふうなことを書いてございました。

先ほどご紹介させていただいた方の個人的意見というところにとどまるわけですが、でもさっき言いましたように、北区史を考える会のフィクサー的存在であります。

ですから、いろんな他の郷土資料館に行かれている中での発言というふうに見ていただければいいと思うのですが、SNSとか云々というのは確かにこれからもツールとして大事なことだと思います、認知度を図る上で。でも、私も北区史を考える会とともに、北区立中央図書館の歴史絡みのイベントを開催する当事者の1人なのですが、開催に当たってアンケートを取ると大体が北区ニュースを見てこられたという方がほとんどなわけですが、90%。そうすると、やはり北区ニュースの存在がとても大きいものがありまして、空気・水みたいな感じで北区ニュースは北区の住民の方々に読まれているし、使われているということがあると思います。

ですから、一度申し上げたことがあるのですが、北区ニュースの中に、もう常時北区飛鳥山博物館のコーナーがあってもいいのではないかと、回覧板に入れたらいいのではないかと、先ほどの手紙でも色つき紙を入れたらいいのではないかと、回覧板に入れたらいいのではないかと、言うておられますけれども、もう少し、もっと身近な存在として、飛鳥山博物館を区民の方々に認知していただくには、本当に空気・水みたいな存在でもいいと思うのです。まず、それがとても大事だとありますので、であるなら北区ニュースの中に定期的に、いつもそこに何かあると、飛鳥山博物館のコーナーがあるという形で、お進めいただきたいなと、もう一度申し上げたいところでございます。

それともう一件、先にご案内いただいたのですが、北区総務課のほうから依頼がありまして、北区80年史を3年後に発行するという予定がありまして、その編集委員の1人に私が任命されました。そこにお伺いすることになっているのですが、実は昭和22年、22区制度が始まって、あと3年たつと80年間になると、非常に長いスパン、この北区は存在しているわけでありまして、その中でいろいろ社会的事象があったと。少し取扱注意的な案件も多々あるのですが、もう80年もたっている中、昭和の話を知らない平成の子

ども、令和の子どもが出てくる時代になってまいりました。そうなってくると、やはり80年の北区の存在を新たな形でテーマ設定していただくようなものも、そろそろ必要になってくるのではないかと思います。もちろん、今年度の事業予定については既にご案内いただいているのですが、次の展開の中で北区の80年というところ、もう本当に現在進行中のこともあるのかもしれませんが、そのようなことも踏まえながら展示内容、企画していただけたら、いいのではないかと思います。

最後に一言、館名として北区飛鳥山博物館というのはとても素晴らしいお名前だと思います。飛鳥山という文言が入っているということは、これは他区の博物館や地域資料館ではない話でありまして、どこかの地域の博物館、郷土資料館という語り、並べ方みたいですが、そこに飛鳥山を入れたということはその歴史性を踏まえながら、この存在感を知らしめていくということだと思うのです。もう一点、北区という存在、重ねて申し上げますけれども、北区という存在は一体どういうことなのということをもう一回認知させる、知らせる、それから共有させる、王子だ、赤羽だ、滝野川だという、そういう地域性云々ということじゃなくて、北区というもう少しはっきりとさせるような方向に持っていったらなというところもあえて申し上げておきたいと思っているところでございます。

以上です。

【委員C】 先ほど、「育む」というところで、若年層の利用促進ということで、早速2月10日に本校に来ていただいて、中高生を対象とした事業開発ということで、やっていただけるということで本当にありがたく思っています。

貝塚についてですが、滝五小が創立100周年で、本校は70周年ですけど、その70周年に向けて同じことをやっても、もう貝塚というのは大体小学校、また中一で分かっていることなので、中学2年生じゃあ、この貝塚のすばらしい冊子に出ているような、この貝塚、そして今後貝塚町会にできる貝塚の資料館について、これは今後10年後の人がどう見てくるか、子どもたちが今、いろんな面で見えています。貝塚町会に住んでいる子たちもあの辺だと、その貝塚の公園を利用するのは近くにある幼稚園の方が自転車を止めていく。そういった形で、じゃあ実際にあそこに何があったのかというようなことを考えていく。その中で子どもたちというのは、我々なんかが考えるよりもいろんなことを考えて、これが果たして全部できるかどうかは分かりませんが、10年たつとどうなるのかというと、もうイギリスのARMが全世界を占めてきて、5Gの世界になっていきます。

そうすると、今、手術でも何でも、脳以外の手術はほぼできるような、そんな遠隔操作ができているような時代に、じゃあ例えばそこに石碑みたいな形で作っても人が来ないだろうと。まず人を来させてなくちゃいけないのではないかということ踏まえて言います。そうすると、人はどこにいるのかというとインバウンド人口が相当います。何でインバウンドが来るかというと、情報がDMとか郵送とか、そういったものじゃない。そうすると、例えばじゃらんとか、そういうものと合わせて、セットにして、例えば民泊とか、あの辺はもう民泊がいっぱいあります。子どもたちも出ているのは民泊と一緒に、その博物館、3つだったら3つの博物館を見られるものも多少入れておく。そうすると、来るのではないか。来たときには、子どもたちが言う10年後ですから50年後というのは、多分もう今これだけの災害が起きていますから、環境にやさしいクリーンなというか、企業イメージだけではやっていられない、もう本能的に我々は危ない時代に向かっているのだから化石燃料は使わない。そうすると、充電と太陽光とそれを充電する電池と、それを動かす自動車なり、5Gや、ここを拠点として子どもたちが考えているのは、どんな人でも、いっぱい集まってきて、それでここで学んだことを基にいろいろなことを楽しめる。そんなことを子どもたちなりに考えているところです。

いずれにしても、あと10年たつと生成AIがほとんどの人間を上回って、人間の10倍以上の脳になる。20年たつと、もう1万倍になってしまう。よく有名な孫さんが言っていますけれども、金魚鉢にいる金魚にABCって書いてあって、これはどういう意味かということで、20年後の人間と生成AIの立場で、我々がこのまま何もそのまま進化しなかったら金魚にABCと書いていないとは覚えられないように無個性になる。そのぐらい、もう20年後は変わってくる、そういう世界の中で子どもたちはこれから何をする、しなくてはいけないのか、街を活性化するためには、飛鳥山博物館をステーションとして活性化するためには、どうしていかなくちゃいけないかというようなことを2月10日の日までに、いろいろとご指南を受けながらと思っております。

以上です。

【議長】 大変多くのご意見をいただきました。これは次回以降も検討しつつ、一つ一つ傾聴に値するご意見ばかりだったというふうに私は考えておりますので、ぜひまた内部でご検討いただきながら、より今回お出しいただいたこの案を少し期待点いただきながら、いいものにしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ほかに何か、特段ご意見はありますでしょうか、この件につきまして。よろしいですか。

本日の協議会につきまして、少しまだご意見言い足りないところがあるかと思えますけれども、これで終了とさせていただきたいと思えます。

それでは事務局のほうに進行をお戻しいたします。

【事務局】 委員の皆様、いろいろなご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。

それでは最後に、館長よりご挨拶申し上げます。

【館長】 本日は台風が接近してくる中、また長時間にわたりまして議論、ご意見いただきまして本当にありがとうございました。

本当に時間的にはあっという間に過ぎてしまいましたけれども、委員の皆様からいただきました様々なご意見、そして応援メッセージというふうにも捉えておりますので、これを我々職員一同がしっかりと受け止めて、今後の博物館の運営、そして企画に生かしていきたいと思っております。

1人でも多くの方々にこの飛鳥山博物館を見ていただきたい、そして北区のよさを多くの方々に知っていただきたいという思いがありますので、今後とも委員の皆様、よろしくお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

【事務局】 以上をもちまして、第1回運営協議会を終了いたします。